

日本共産党川棚支部

町議会議員 久保田かずえ

電話(八三)一三三九八

日本共産党川棚支部の議会報告を紹介します。ご意見、ご感想をお寄せください。

口蹄疫問題

防止対策と農家への支援対策を

二〇一〇年六月町議会の一般質問で、久保田かずえ町議は、口蹄疫問題などについて質問しました。

尋ねる。

町長

久保田かずえ町議

4月20日、宮崎県都農町で、口蹄疫感染が疑われる一例目が確認されてから終息することなく感染地域が日々広がっている。

感染被害を食い止める最も重要なことは、ウイルスを拡散させないことです。そのためには、感染した家畜をいち早く処分して埋却することです。本町にあつてはならないことですが町として、被害を前提とした蔓延防止対策や、畜産農家への支援対策を検討することや被害発生と同時に対応できる埋却場を町として確保する必要があると考えるが、町長の考えを

ウイルスの浸入防止予防対策として各畜産農家に消毒薬と消石灰の配布を行っている。

埋却場の確保が防疫対策に最も重要な課題になる。今後さらに農家と協議を行い初動防疫の徹底のために早期の終息に向けて防除活動を実行する。

久保田かずえ町議

農家の方は毎日枕を高くして眠れない状況に置かれていると思う。



川棚町は、ハウステンボスと隣接しており、外国からの入国者や人の流れから危険な状況が起ころうる。人の出入りするところの消毒を行うべき。

町長

町としては、県の指導を頂きながら、口蹄疫対策本部委員長と言う立場で立ち上げており、段階ごとにどういった対応をするか取り決めていく。それに沿って対応していきたい。

インシシ対策について

久保田かずえ町議

鳥獣被害防止総合対策事業として、自治体や団体からインシシ被害対策の要望があれば、ワイヤーメッシュ等の現物が支給される。

自治会によっては設置や保全管理作業に対する不足金を求められるところもあり、住民の中には負担になられる方々もある。インシシ被害対策にとつてワイヤーメッシュの設置は欠かせない。きめ細かな行政の指導や、手だてを考えるべき。

町長

設置、設備の維持保全活動は受益者を中心とした事業者が行い自発的な防疫対策を行うとしている。町が管理していくことは考えていない。

久保田かずえ町議

ワイヤーメッシュを設置しても保全管理作業をしなればインシシの巣を作ってしまう。

給食センター民間委託の見直しを

久保田かずえ町議

二〇〇五年七月一五日に制定された食育基本法は「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには何よりも食が必要である。

今、改めて食育は生きるための基本であり知育、徳育、体育の基礎となるべきものと同時に位置づけるとともに、生涯にわたつて健全な心と身体を培い豊かな人間性を育ていく基礎となるものである」とある。まさに教育の一環であり学校活動全体に参加できない営利業者に調理を委託するのは

町長

波佐見では、実行組合、東彼岸町では関係者で行っている。川棚町でも実行組合を通じて指導できないか。

質問が出たということ、善処方をお願いすることはやぶさかでない。

不適切である。よって、学校給食センターの民間委託計画は見直すべき。

教育長

近年、児童生徒の食生活においては、偏った栄養摂取に関する意識の低下などが指摘されている。これらの課題を解決するためには家庭、学校、給食センターがこれまで以上に連携して食育を推進することが必要。

一方で、厳しい財政状況の中、安全でおいしい学校給食の提供を継続していく為に給食業務全般のコスト削減をはじめ、その効率的運営が求められている。ウラ3段目に続く